

4面 工務店経営 [スキルアップ]

リアルな場に来てもらうために

32回目となったジャパンホームショー。手前味噌になるが、本紙も、普段のご愛顧への感謝を少しでも伝えられればとブースを開いた。ここ数年とは違った取り組みをしたこともあり、多くの方に立ち寄りいただいた。ただ、出店企業数は、減少傾向にある。2008年には

600社あった出店企業数は、昨年、今年と連続で減った。来場者数もわずかだが減少。ある出店企業は、「ブースの数が減り、通路の幅が広がって、余計にさみしい感じがする」と話していた。ただ、さみしい中にも、多くの人を集めるブースもあった。

インターネット時代、誰もが情報を見る。リアルな場所を訪れる場合もある程度のリサーチをすることが普通であれば、無駄になるからだ。リアルのこれまでとは異なる工夫が必要だ。

セラミック蓄熱体で熱回収91% ダクトなしでシンプル熱交換

パッシブエネルギージャパン（東京都小平市、ドイツインガー・クリスティアン社長 ☎042・315・1661）は、高効率の全熱交換型換気システム「インヴェンター」を出展した。

ダクトなしで壁に取り付けるコンパクトなシステム。壁を貫通するスリーブ管内に円柱形のセラミック蓄熱体（径150mm、長さ125mm・150mm）を内蔵し、そこを通して交互に給気・排気を繰り返すことで熱交換する。

1時間あたり0.5回の換気量が確保できるよう、換気計算にもとづ



シンプルなくみで高効率の熱交換換気システム「インヴェンター」

いて個々に設置を提案。40坪程度の家であれば6台が標準だ。それぞれが70秒ごと互い違いに運転モードを切り替えるため、給排気が同時に行われる。排気時に蓄熱体

へ室内空気の熱をため、給気時に新鮮空気へと放熱。熱交換効率最大91%を実現した。

ダクトがないため施工が早くメンテナンスが容易。蓄熱体は取り外して丸洗いできる。1台あたりの風量は54.4m³/h、消費電力は最大3Wh。ドイツ製のシステムで、およそ10万台の採用実績がある。

同社はこれを日本でも普及させようと、総代理店として今年4月に設立。すでに約400台を販売した。

6台セットの定価は約70万円（施工費別）。

もみがらを固めて多目的ボードに 米どころならではの資源生かす

東北工務 秋田県能代市。鈴木孝典社長 ☎0185・38-2570 は、福の脱炭素に生かすもみがらをボード状に成形した「もみがらエコボード」を出展した。

米利三資源を主として地元の農業に貢献しようと開発した製品。通常は焼却するしかないもみがらにエポキシ樹脂系接着剤を混ぜ、型枠に入れて圧縮する。できあがるボードは用途が広く、断熱材や吸音材のほか塗り壁の下地材、ガーデニングの仕切り材、建具の心材、またそのまま内装の仕上げ材にすることも可能だ。



もみがらを固めてつくる断熱ボード「もみがらエコボード」

断熱性能は熱伝導率0.06～0.07W/mK程度。ほか、調湿性や吸音・遮音性が高いことも国や県の試験機関で確かめている。

今年夏に商品化し、地元・能代

市を中心に秋田県内で徐々に出荷を伸ばしているところ。販売元・コバリン秋田営業所の小柳正徳所長によると、既存の壁・床・天井の上にそのまま張り、短時間で内装の模様替えをするケースが多いという。もみがら独特の質感や表情を楽しめるうえ、簡易・安価な手法で断熱性や調湿性の向上が期待できる。

サイズは2×1mと30cm角の2種で、厚さはいずれも15～30mm。カラーやデザインのバリエーションも豊富だ。価格は無地の2×1mが1枚6000円、同30cm角が800円。



来場者は8万7600人

今回はそのなかから、記者が会場でピックアップし取材したエコ建材・設備を紹介する。